
誰が赤子を隠したか

水銀。杏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

誰が赤子を隠したか

【Nコード】

N2986Y

【作者名】

水銀。杏

【あらすじ】

私は何故産まれたんでしょう？誰の為なんんでしょう？そもそも、自分の存在価値って？ 親を知らない小春。何が大切なのか…。

プロローグ（前書き）

最初なので、試しに読んで見て下さいw
今の時代に何が大切なのかを、書いていきます。

プロローグ

数日前から吐き気が止まらない。

気持ち悪く、食欲も出ない。

お母さんの相談して、病院に行った。

私：妊娠してるんだって

誰が赤子を隠したか

15歳の麻里には性行為の経験がない。

だから、妊娠するはずなんてない。

それはお母さんにも言ったが、信じてもらえなかった。

時間が経つにつれて、お腹が大きくなっていく。

想像妊娠かと思っていたが、

だんだんお腹にいる子を愛するようになっていた。

女の子がいいなー

男の子でもいいけどね

んー…

健康な子が生まれてこれば…

これは神様がくれた子なんだ

大切に育てなきゃ

数か月後、女の子が産まれた。

名前は『小春』。大声で泣いている…元気な証拠だ。

私は産んだ疲れと喜びで、その日の夜は早く眠りについた。

朝、私は目が覚めた。

産婦人科のベッドは、自分のベッドより寝やすかった。

そして私は気付く。

すぐ横に置いてあったベビーベッドに、

小春がいないことに。

麻里は焦り、混乱し、自殺した。

数年後…

「小春ちゃん！もう学校の時間じゃないの？」

「…んー？」

これは『小春』の物語

プロローグ（後書き）

次話 1時間後

感想・誤字等受け付けます

他の作品も読んでいただけると、ありがたいです。

1・生い立ち(前書き)

孤児院ってどんな感じなんですかね…予想にすぎないです。

1・生い立ち

小春は隣町の孤児院で育った。

物心ついた時からココに居たため、小春はどっやって来たのか分からない。

もちろん、母親の顔も。孤児院の先生は何も教えてくれない。

小学生

勉強も運動も出来る子で、学校の先生からお墨付きだった。

あまり友達はいなかったが、毎日楽しそうに通った。

中学生

母親がいないという理由で、小春はいじめに遭った。

かといって弱音を吐くことなく、学校に通い続けた。

現在高校1年生

孤児院の近くにある公立に通うことになった。

偏差値は普通ぐらいで、小春は特に受験勉強をしなかったらしい。

テストでは上位をキープしていて、少し有名になった。

だが、小春は積極的な子ではないため友達はいないが、とても強気な性格だった。

「小春ー。クッキー作ったから食べなよ」

「莉宇さん！ありがとうございます……」

孤児院に働く、21歳の星野莉宇さん。

優しい人生の先輩のようで、気軽に喋れる。

「どうする？学校に持ってく？」

「……、あげる子いないし」

「そっか」

莉宇はある程度クッキーを皿に分けてから、あまりをタッパーに詰めた。

冷蔵庫から麦茶を取り出そうとした時、

「あんだ、今日学校は!？」

時計を指差して聞いてきた。

「今日は休みます。…嫌いな教科ばつかなんで」

はあ…。莉宇は溜息をついて、麦茶をコップに注ぐ。

「いいねー。勉強しなくてもテストで良い点取れるんだから」

「そんなことないですよ、テスト前に教科書をガッツリ読みますよ」

実際にはパラパラと見ただけ。

それでも回答欄を全部埋めることが出来る。

小春はそんな自分に少しビックリしていた。

「小春、皆学校に行つたし、ちょっとお話しようか？」

莉宇が何故かニコニコしている。

「…?」

愛想笑いが出来ない小春は、口だけ笑った。

1 生い立ち（後書き）

次話 10日（10時）

誤字・感想等受け付けます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2986y/>

誰が赤子を隠したか

2011年11月7日11時11分発行